

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【商業／簿記】

1. 対象 対象クラスの生徒は、6割が就職希望であり、その内9割が地元企業へと考えている。生徒の多くが資格取得に対して前向きである。前時の「仕訳と転記」について定着度テストを実施し、その結果から大半の生徒が理解していた。指示されたことは、すぐに取り組めるが、自ら考え判断し表現することは苦手である。そのため「ペア学習」を取り入れ、友人に自らの意見を伝える授業を展開してきた。徐々に、主体的・協働的に取り組むことが日常化してきた。今後は更に4～5人程度の「グループ学習」に発展させ、よりコミュニケーション能力などのスキルを上達させていきたい。

2. 単元名「簿記一巡の手続き」（全6時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技術	取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続きの基本的な知識と流れについて、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続きの妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記一巡の手続きを適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

4. 本時の目標

仕訳帳と総勘定元帳の役割と記帳方法を理解する。

5. 授業展開【 **本時** ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
仕訳帳と総勘定元帳はどのような点に注意して記入すればよいのでしょうか？

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
「仕訳帳はどんな帳簿か？作成ポイントを考える」 ■ 教科書の折り込み「仕訳帳」	「総勘定元帳はどんな帳簿か？作成ポイントを考える」 ■ 教科書の折り込み「総勘定元帳」	仕訳帳と総勘定元帳の作成と帳簿残高の計算 ■ 教科書にある取引を仕訳帳に記入し、総勘定元帳に転記する問題
想定される活動	想定される活動	想定される活動
(1) なぜ仕訳帳では1つの行に1つの勘定科目しか書かないのか？ (2) なぜ勘定科目が2つ以上になる場合、「諸口」と書くのか？ (3) なぜ「諸口」にはカッコを付けないのか？ (4) 前の仕訳と次の仕訳を区別するための線は、前の仕訳が終わった後に引くのか？それとも次の仕訳が始まる前に引くのか？	(1) 勘定の借方・貸方金額の合計金額はいくらか？残高は借方・貸方どちらにいくらあるか？ (2) なぜ摘要欄に諸口と書いてあるのか？ (3) 転記（仕訳帳から総勘定元帳に金額等を書き写す）をする際のポイント（やり方・注意事項）は何か？	(1) 作成ポイントを活用（確認）しながら、問題に取り組む (2) 作成ポイントを再度見直し、修正する (3) 帳簿残高の理解を深め、転記がうまくできたかを確認する方法について考える

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### 対話の方法

#### 【ペア学習】 10分

- ・与えられた考えるための材料A、Bを見ながら作成ルールを考え、ワークシートにまとめる。

#### ＜考えるための材料Aに対する対話（予想）＞

- ・日付欄には取引があった月日を取引順に書くんだよね。同じ月の場合は月を省略して書けばいいんだよね。
- ・摘要欄には左半分には借方勘定をカッコ付けで書き、右半分には貸方勘定をカッコ付けで書くんだよね。仕訳帳では1つの行に1つの勘定科目しか記入できないね。
- ・摘要欄には取引で勘定科目が2つ以上になる場合には「諸口（カッコなし）」と記入するんだよね。
- ・勘定科目を記入したら、次の行に取引の内容（まとめたもの）を記入するんだよね。
- ・元丁欄には仕訳帳から総勘定元帳の勘定口座に転記したときの勘定口座の口座番号を記入すればいいんだよね。
- ・金額欄には借方の勘定科目の金額を借方欄に、貸方の勘定科目の金額を貸方欄に、勘定科目と〃行と書けばいいんだよね。
- ・次の仕訳を記入する前に、摘要欄に線を引けばいいんだよね。その後に次の仕訳をやればいいよね。

#### ＜思考を深める発問＞

- ・なぜ仕訳帳では1つの行に1つの勘定科目しか書けないのか？
- ・なぜ勘定科目が2つ以上になる場合、諸口と書くのだろうか？
- ・なぜ諸口にはカッコを付けないのだろうか？
- ・前の仕訳と次の仕訳を区別するための線は、前の仕訳が終わった後に引くのかそれとも次の仕訳が始まる前に引くのか。その理由も含めて考える。

#### ＜考えるための材料Bに対する対話（予想）＞

- ・日付欄には仕訳帳に記入されている取引の日付けを記入すればいいよね。同じ月の場合は月を省略して書けばいいんだよね。
- ・摘要欄には仕訳の相手科目を書けばいいんだよね。相手勘定が2つ以上ある場合には諸口と書いているね。
- ・仕丁欄にはその仕訳が記入されているページ数を記入しているね。
- ・借方欄・貸方欄には仕訳の借方金額を借方欄に、貸方金額を貸方欄に記入すればいいね。

#### ＜思考を深める発問＞

- ・現金勘定の借方金額と貸方金額の合計金額はいくらか？また残高はどちら側（借方・貸方）にいくらあるか？
- ・なぜ摘要欄に諸口と書いてあるのか？その理由を考える。
- ・もし総勘定元帳の借方合計金額と貸方合計金額が一致していない場合は、どんなことが考えられるか？

#### 【グループ学習】 12分

- ・材料Aで学習したペア1組、材料Bで学習したペア1組を1グループ（4人）として作成したルールを統合させる。
- ・ペア学習で対話した内容の要点を互いのペアにシートを活用しながら説明をする。
- ・特に、思考を深める発問に対する回答について説明をする。説明でわからなかった箇所を明確にし、グループで考えて解決する。

#### ＜対話（予想）＞

- ・仕訳帳に1つの行に1つの勘定科目しか書けないのは、転記ができなくなってしまうから。
- ・勘定科目が2つ以上になる場合、諸口と書くのは、相手勘定が複数ある場合、総勘定元帳に複数書くことができないため、**諸々の勘定口座**の略として諸口と言うから。
- ・諸口にカッコを付けないのは、勘定科目でないから
- ・次の仕訳と前の仕訳を区別するための境界線は、次の仕訳の前に書く。その証拠に仕訳帳の最後に記入されている仕訳の下には境界線が引かれていない。

**【発表】 15分**

- ・ワールドカフェ方式を利用し発表する。
- ・グループ学習で考えたシートを使いながら、作成のポイントについて他のグループに説明する。特に思考を深める発問については、自分たちの考えを伝え、わからなかった場合は他のグループがどのように考えたかを聞くようにする。

- ① グループの1人が残り説明し、他の3人が他の班に聞きに行く。(3分)
- ② 3人が戻り、他のグループの意見を説明し、自分たちのルールを加筆・修正(6分)
- ③ グループの1人が残り説明し、他の3人が別の班に聞きに行く。(3分)
- ④ 3人が戻り、加筆・修正すべき点があれば行う。(3分)

**【グループ演習】 13分**

- ・考えるための材料Cを各グループで作成したルールをもとに解答する。作成したルール通りにできるかどうかを確認する。また、帳簿残高を計算し、どのように計算したかを考え、解答する。

**指導上の留意点**

- ・ペア学習、グループ学習においては、対話を通して課題に対する考えをまとめ、根拠を持って論理的に説明できるように準備させる。
- ・グループ演習では、ヒントプリントを配布し、説明に見通しがもてるよう配慮する。

**学習の成果（予想される生徒のあらわれ）**

「仕訳帳や総勘定元帳の作成方法には様々な記入上の注意点（特に諸口や小書きの意義）があることが分かった。」

「元丁と仕丁の意味（記入上の注意点）を知ることによって、取引が発生したら仕訳帳に仕訳を起し総勘定元帳に転記する流れや関係性を理解できた。」

「仕訳帳と総勘定元帳の記入上の注意点を理解することで、企業における適正な取引の記録と財務諸表の作成の重要性を感じた。」